

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	阪南大学(仮称)新教室棟新築工事	階数	地上5F
建設地	大阪府松原市天美東	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防	平均居住人員	4,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年9月27日
敷地面積	4,340 m ²	作成者	野嶋淳平
建築面積	2,706 m ²	確認日	2022年9月27日
延床面積	9,890 m ²	確認者	小谷陽次郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 大学敷地内最大の教室棟として、これからの学習環境に求められる空間・品質をクリアした魅力的な教育空間を創出する。屋外テラスや自然換気窓・ハイサイドライト等を積極的に採用することで、地球環境への負荷低減にも配慮した計画。		
Q1 室内環境 学生が集中して勉強に取り組めるように、高い遮音性能・吸音性能を確保する計画とした。化学汚染物質の発生を抑えた建材を積極的に採用することで、安全に使用できる空間を目指した。	Q2 サービス性能 大学の教室棟として、十分な階高と空間のゆとりを確保することで、多様な学習に対応可能な空間を提供する。内装設計段階から、学生の意見を取り入れ、利用のしやすさと見え方に配慮した内装デザインとした。	Q3 室外環境(敷地内) アスファルトのタイルを取り入れた、既存キャンパスと敷地周辺建物と調和する外装計画とすることで、一体的な景観の創出に配慮した。
LR1 エネルギー 熱負荷の高い方位に対して、十分な断熱性能を持った外皮を計画することで、外皮の熱負荷を十分抑制できる計画とした。設備に関しても、自然エネルギーを積極的に取り入れ、一次エネルギー使用量を積極的に削減することでパッシブな	LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生器具の採用により、省資源に配慮した計画。内装材等の建材にはリサイクル材や有害物質を含まない材料を積極的に採用することで、環境負荷に配慮した計画。	LR3 敷地外環境 周辺環境の夜間景観に配慮した、控えめな照明計画とした。騒音・振動・悪臭についても、周辺住民や利用者から求められる水準をクリアし、大学施設として十分なレベルを確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	阪南大学(仮称)新教室棟					
	建設地	大阪府松原市天美東					
	用途/区分	学校(大学等)					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					4	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.3	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	4.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		